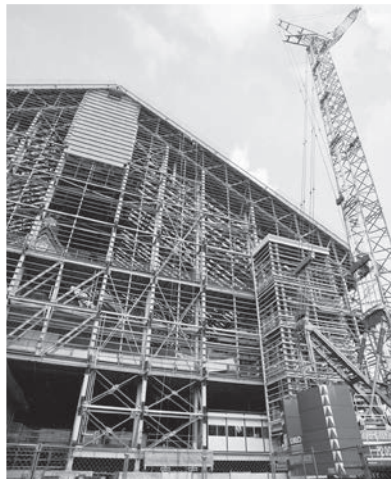




御影堂側から見た素屋根

場の視察会場として、真宗本廟にご参拝された多くの方々に来場いただきました。
ところで、阿弥陀堂の仮設素屋根は、二〇〇九年七月に御影堂の仮設素屋根を南側に約七十メートルスライドし再利用してきたもので、このたびも同様のスライド工法を採用して解体を進めていきます。阿弥陀堂の南側に向かって仮設素屋根を段階的にスライドし解体していくこの工法を採用することで(右頁イメージ図)、修復

これは、レール代わりの鉄骨と素屋根本体の間にローラーを置いて、百トンもの重量を引くことの出来る油圧ジャッキ(東西の二カ所)で引く張る仕組みで、これでスライドさせていきます。また、各スライドが終了するたびに、スライドさ



阿弥陀堂南側から見た素屋根

の終わった阿弥陀堂の直上で作業を行うことなく、安全に解体を行うことができます。
現在、阿弥陀堂南側の広場には、最大十三トンもの重量を持ち上げることのできる大型のクレーン(クローラータワークレーン)が入り、解体する鉄骨を一時的に仮受する構台なども設置されています。
解体作業では、まず仮設素屋根の南北の妻壁(側面壁の上部)の切り離しとともに南側七メートル分の壁が解体され、その後、一三五〇トンにもなる鉄骨重量の仮設素屋根を南に七メートルスライドさせ、その七メートル分を解体するという作業を九回繰り返し返していきます。
これは、レール代わりの鉄骨と素屋根本体の間にローラーを置いて、百トンもの重量を引くことの出来る油圧ジャッキ(東西の二カ所)で引く張る仕組みで、これでスライドさせていきます。また、各スライドが終了するたびに、スライドさ

お知らせ

境内の志納所を閉所しました

2015年1月末をもって、境内白洲(阿弥陀堂門前)に設置していた真宗本廟両堂等御修復懇志志納所を閉所し、御修復事務所は宗務所財務部内へ移転しました。

御修復懇志については、財務部、本廟部(参拝接待所)、研修部、大谷祖廟事務所、各教務所においてお取扱いをいたしております。

引き続き御修復完了まで、真宗本廟両堂等御修復という大事業にご理解を賜り、お一人でも多くの方々に御懇志を進納いただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

お問い合わせ 財務部(真宗本廟両堂等御修復事務所) Tel. 075-371-9186



御修復のあゆみ

伝承された先達の願い

阿弥陀堂仮設素屋根解体工事始まる

二〇〇四年の御影堂御修復工事の着手から進められてきた両堂等御修復工事も、残すところあと一年となりました。

二〇一五年末の御修復完了に向けて、現在は阿弥陀堂内部の修復作業とともに、これまで工事の足場としての役割を果たしてきた仮設素屋根の解体工事が一月から進められています。

阿弥陀堂の仮設素屋根は、主たる御修復工事である屋根瓦の葺き替えをはじめ、木部、鍔金物などの修復や美掃作業を行うための足場であり、重さ三トンにもおよぶ大きな瓦に代表されるような重量のある資材を置くことのできる集積場として建設されたものです。

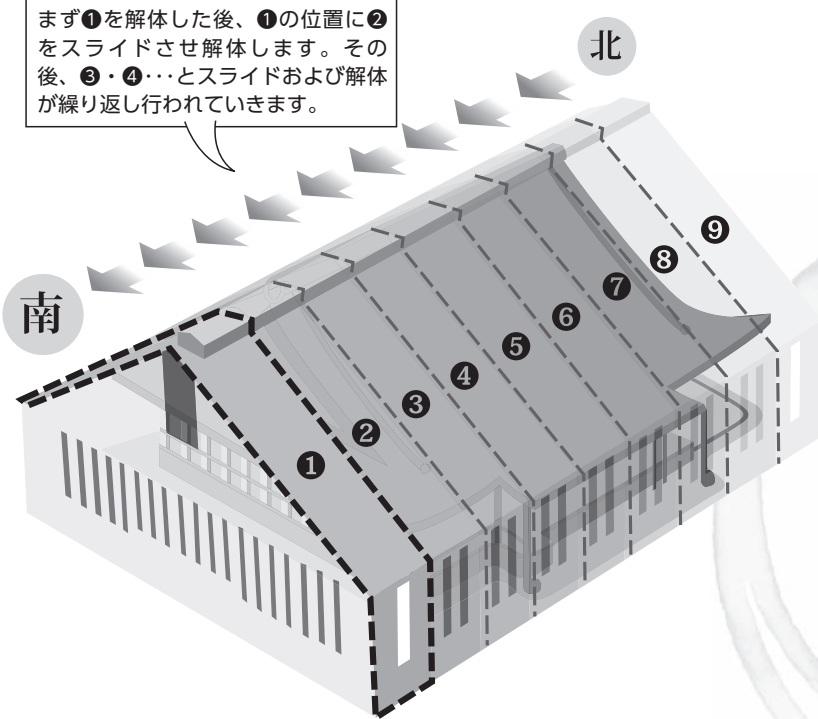
修復中は本組前の瓦合わせや床面を使つての原寸図面の作図など、



阿弥陀堂門前から見た素屋根

現地での作業を合理的かつ円滑に行うための作業場としても活用してきました。
さらに、工事用としての用途にとどまらず、修復された御影堂の屋根根もととも阿弥陀堂御修復現

スライドイメージ図



まず①を解体した後、①の位置に②をスライドさせ解体します。その後、③・④・・・とスライドおよび解体が繰り返し行われていきます。